

日韓の中学校歴史教科書叙述に関する研究 —近世から近代の日韓関係史を中心に—

釜田 聡*・許 信恵**

(平成24年9月28日受付；平成24年11月5日受理)

要 旨

本研究は、日本と大韓民国（以下、韓国）の中学校歴史教科書における近世から近代の日韓関係史に関する叙述を比較検討し、今後の日韓双方の歴史教育実践の充実に向けての指針を導出することを目的とする。

本研究では、2012年度日韓双方の中学校現場で活用されている歴史教科書における近世から近代の日韓関係史に関する叙述を比較検討した。比較検討の結果、次の3点が明らかになった。

- 1 日韓の歴史教科書とも近世から近代までの日韓関係史の叙述は、朝鮮通信使関連の叙述だけであった。
- 2 日韓の歴史教科書とも朝鮮通信使の互惠性を十分に叙述していない。
- 3 日本の中学校歴史教科書の方が朝鮮通信使の叙述が充実している。

KEY WORDS

歴史教科書 History textbook
日韓関係史 History of Japan-Korea Relations

1 問題の所在

1. 1 日韓の歴史認識問題と歴史教育

2012年8月10日、韓国の李明博大統領が電撃的に竹島（独島）を訪問した。その後、日韓双方で竹島（独島）と歴史問題を巡る報道が過熱した。最近では、日本と中華人民共和国（以下、中国）との尖閣諸島領有問題との関係で、日本対韓国・中国との戦後歴史認識の問題、あるいは戦後の戦争責任の問題を射程に入れた報道が飛び交い、日本と韓国・中国の関係は緊張状態が続いている。とりわけ日韓では竹島（独島）の問題と従軍慰安婦の問題、同時に包括的な歴史認識の問題として、政治外交上や経済交流、あるいは歴史教育上の喫緊の課題としてとらえられている。

1. 2 日韓の中学校歴史教育

2012年春、日本の中学校現場では、新しい教育課程による教育が完全実施された。新しい教育課程は、現代社会をグローバル化の進行に伴う知識基盤社会ととらえ、そうした社会に主体的に対応できる力、すなわち生きる力の育成に向け、内容と方法の改善を図った¹⁾。

韓国の中学校歴史教育と教科書制度においては、2011年度から注目すべき改編があった。

韓国・教育科学技術部は、2011年度より導入される新しい教育課程について、中学校と高校の歴史教育課程の改編案を2010年5月12日に発表した。同改編案は、高校の「歴史」が「韓国史」に名称変更され、内容の構成について、中学校では「民族運動の展開」が、高校では「高麗と朝鮮の成立と発展」が新たに加えられるほか、中学校・高校での竹島（独島）に関する学習内容が強化されることになった²⁾。

この改編案は、完全実施の1年前にもかかわらず「教科」の名称変更と内容構成の新たな付加という大幅な改革が盛り込まれたものである。こうした「教科」の名称変更と内容構成の変化、竹島（独島）関係の記述の増加は、日本国内の竹島（独島）に関する政治・外交上の動向に対するリアクションともいえよう。

1. 3 日韓中学校歴史教科書における近世から近代の日韓関係史

秀吉の朝鮮侵略（壬辰倭乱）は当時の日本と朝鮮の関係を断ち切り、現在でも日韓の歴史認識問題として歴史教育上の重要な課題となっている。一方で、最近の日本の中学校歴史教科書は、秀吉の朝鮮侵略（壬辰倭乱）という破壊的な出来事から、数十年の年月をかけ朝鮮通信使を中心とした外交関係を再構築していったことに着目した叙述が多

*学校教育学系 **韓国韓南大学

くなってきた。江戸時代初期、どのように日朝関係を修復し、その関係をどのように維持・発展させたかを日韓双方の視座から学ぶことは、日韓の現状と課題を考える上で必要不可欠であると考ええる。

朝鮮通信使は、回答兼刷還使（日朝国交回復と捕虜返還）の目的で1607年に始まり、1811年に家齊襲封祝賀の名目で行われるまでの12回実施された。最後の12回目は、朝鮮通信使一行が対馬に差し止めされるなど、通信使外交の終焉の気配がうかがえる。しかし、朝鮮通信使を通じた日朝外交がどのように途絶え、1875年の江華島事件、1910年の韓国併合、その後の植民地支配にどのようにつながったかを多角的にとらえ直すことは、歴史教育では極めて重要である。そうすることで、現代における日韓の交流の在り方や未来の日韓関係を問い直すことにつながると考える。

1. 4 先行研究との関係

1980年初頭のいわゆる歴史教科書問題を契機に日韓の歴史認識問題に関する学術研究が本格的に始まった。特に日韓の歴史教科書叙述を基盤とした日韓の歴史対話は重厚かつ多角的な研究成果を積み上げてきた。研究組織は歴史学研究者の交流から、歴史教育研究者、歴史教育実践者にまで裾野が広がってきた。研究組織として特筆すべきことは、歴史学研究者・歴史教育研究者・歴史教育実践者が協働して研究交流に取り組むようになったことである。

こうした日韓の歴史対話について、これまで日韓の歴史対話で中核的な役割を果たしてきた二人は次のように総括している。

日本では、君島和彦（2009）が、これまでの日韓の歴史認識をめぐる交流を次の五つの段階に整理している³⁾。

第一段階「研究者の交流・翻訳」

第二段階「日韓の歴史研究者による研究発表会」

第三段階「歴史教育と歴史教科書を学び合う」

第四段階「教育実践の交流」

第五段階「共同作業による教材作成」

君島は、自らが取り組んできた経緯を振り返り、今後は教育実践の交流と共同作業による教材作成が日韓歴史認識問題の突破口になるのではないかと期待を示している。

韓国では、鄭在貞（2012）が自らの体験を踏まえ、「1982年」、「2001年」、「最近」の三つの段階で日韓の歴史対話を次のように総括している⁴⁾。

1 1982年～1990年代：歴史教科書を土台とした対話が進んだ。

2 2001年：いわゆる「新しい歴史教科書」問題で、日韓の歴史対話は市民レベルに広がった。

3 最近：「歴史和解」「国境を超えた歴史教育」の探索が始まり、日韓、あるいは中国を加えた共通教材の作成に着手した。

鄭はこうした経験をもとに、「今後は隣国との関係の歴史をどのような観点から捉えるのか。そのときに、人、もの、文化などの交流、交易、移動のようなお互いに影響し合った歴史を重んじることが大切だ⁵⁾」と今後の日韓歴史教育の方途を提示した。

最近の日韓の中学校歴史教科書に叙述されている近世から近代の日韓関係史に関する研究は次の二つがある。

一つは、梅野正信・二谷貞夫他の研究成果である。梅野・二谷（2010）は日韓の中学校歴史教科書の中の朝鮮通信使の叙述について、次の2点について研究成果を述べている⁶⁾。

一点目は日韓中学校歴史教科書の中における朝鮮通信使の歴史的意義についてである。日本の検定歴史教科書は国交回復の歴史的意義を象徴する事実としてとりあげている。韓国の国史教科書は朝鮮通信使が日本における文化の発展に貢献したことを強調している。

二点目は政治外交上の位置付けについてである。朝鮮側の通信使は江戸まで赴いたが日本の使節はソウルに入ることが出来なかった点等をあげ、朝鮮側が優位に立つ関係であったとしている。

もう一つは、釜田聡の研究成果である。

釜田（2006）は、中学校社会科歴史教育における朝鮮通信使の位置付けについて、秀吉の朝鮮侵略（壬辰倭乱）と朝鮮通信使、江華島事件の歴史的連続性を十分に叙述していないことを明らかにした⁷⁾。その上で、その課題解決に迫るため朝鮮通信使の教材開発研究及び授業実践を行い、その教材開発の有効性を提示した⁸⁾。またESDと日韓の歴史教育、ESDと朝鮮通信使について、学習指導要領と教科書の分析及び地域調査の結果などを公表した。

本研究は、これまで日韓双方で蓄積されてきた研究成果を踏まえ、最新の日韓中学校歴史教科書の比較検討を行うことで、今後の日韓双方の歴史教育の実践と研究の充実・発展に寄与するためのものである。

2 研究の目的と方法

2. 1 研究の目的

本研究は、日本と韓国の中学校歴史教科書における近世から近代の日韓関係史に関する叙述を比較検討し、今後の日韓双方の歴史教育実践の充実に向けての指針を導出することを目的とする。なお、「近世から近代」とは一般的に用いられている時代区分であるが、本研究では秀吉の朝鮮侵略（壬辰倭乱）から江華島事件までとする。

2. 2 研究の方法

2. 2. 1 研究対象

研究の対象とする日韓の中学校歴史教科書の出版社名は次のとおりである。

- ・日本：東京書籍，教育出版，日本文教出版，清水書院，帝国書院，育鵬社，自由社 計7社
- ・韓国：ミレエン，ツサン，チョンジエ，デギョ，ギョハクサ(1)，ジハクサ，ピサン，ギョハクサ(2) 計8社

2. 2. 2 研究の手順

最初に、韓国の歴史教科書制度の変遷を概観する。韓国の「韓国の歴史（国史）」関連の教科書制度は、1981年から「1種図書」制度が採用されていた。すなわち、編纂と発行権は国家がもつが、研究開発と叙述は国史編纂委員会が行う時代が続いたのである。しかし、2007年の改訂教育課程によって、「検定制」の教科書制度に変わった。本研究に先立ち、こうした韓国の歴史教科書の制度の変化を概観する。次に、日韓の現行歴史教科書の近世から近代までの日韓関係史の教科書叙述を一覧表に整理し可視化することで比較検討する。比較検討の視点は教科書叙述を整理した上で抽出し比較検討する。続いて、具体的な教科書叙述を比較検討する。最後に、研究成果をまとめ、今後の日韓双方の歴史教育実践の充実に向けた指針を導出する。

3 研究の結果と考察

3. 1 韓国の歴史教科書制度の変遷

韓国の教科書制度で国定制、検定制が実質的に始まったのは日帝の統監府時代からである。乙巳條約以後統監府は教科書使用規定を厳格に適用、施行した。普通学校領の施行規則に普通学校の教科用図書は「学部で編纂したものをを使うが、特別な場合には学校長が学部大臣の認可を受けて学部編纂以外の図書を使う」と規定した。これが国定制と検定制の実質的な始まりと言える。以後、韓国の教科書制度は国定制と検定制を中心に現在に至った。

次の【表1】は、初めて韓国政府の次元で教育課程が制定された1次の教育課程期から現在までの教科書の制度上の変遷を整理しまとめたものである。

【表1】 韓国の歴史教科書制度の変遷

時期	歴史（国史） 関連教科書制度	参考
1次教育課程期 (1955年公布)	検定制	ー小学校すべての教科，中高等学校の国語，道徳，実科の教科書：国定 ー他の教科は検認定教科書で編纂 ー1969年教育課程部分改訂
2次教育課程期 (1963年公布)		
3次教育課程期 (1973年公布)	国定制	ー中高等学校の社会，国史，道徳教科書：国定 ー『国史』教育の強化
1977年8月「1979学年度から使う教科書及び指導書研究開発のための編纂基本計画」発表によって，教科書の発行制度は国定制と検定認定制から1種図書と2種図書制度で改訂		
4次教育課程期 (1981年公布)	1種図書	ー1種図書： 編纂と発行権は相変わらず国家や国家機関が持っているが従来の国定教科書と違い研究開発は専門機関が引き受けて行った。 （研究と著述は主に国史編纂委員会が担当した。） ー1種図書は「研究開発型図書」に定義される。 ー世界史：2種図書
5次教育課程期 (1987年公布)	1種図書	ー世界史：2種図書

6次教育課程期 (1992年公布)	1種図書	－世界史：2種図書
7次教育課程期 (1997年公布)	1種図書	－世界史，韓国近現代史（深化選択科目）：2種図書 －中学校社会（世界史の内容が含まれている），2種図書
2007改訂教育課程 以後～現在	検定制	*全体が検定制で転換 －歴史（中学校）：検定制 －韓国史，東アジア史，世界史（高等学校）：検定制

(作成・許)

初・中等学校の教科書の発行制度が国定制（1種図書）から検定制に転換する問題が本格的に論議され始めたのは、第7次教育課程の時期からである。金泳三（大統領）政府の教育改革委員会が世界化局面にふさわしい新教育体制樹立を追求しながら規制を緩和する方向に進んだ。それによって教育部や教育庁は教科書執筆と発行に関して概括的な基本指針だけを提示して教育界及び関連専門家の集団が自由競争の原則によって、教科書執筆及び製作で専門性を発揮できるようにするという指針が立てられた。しかし、このような方針は7次教育課程では貫徹されることができなかった。その後、2007年改訂教育課程ですべてが検定制の適用を受けるようになることで結実した。近代で公教育体制が樹立された以後、歴史関連教科書が今まで持続的に国定教科書体制の中から留まって来たという点を考慮すれば、検定制への転換は韓国の歴史教科書制度上の非常に大きい変化だといえる。

3. 2 日韓中学校歴史教科書における朝鮮通信使関係の叙述・図版等の一覧

2012年版の日韓中学校歴史教科書について、次の手順で分析の視点を導出し【表2】を作成した。

最初に、日本7社、韓国8社の朝鮮通信使に関する叙述を読み、比較する視点を検討した。

その結果、次の7つの比較検討の視点を導出した。

(1) 国交回復の経緯が書かれているか、(2) 慶賀の使節、代替わりのお祝いなどの記述があるか、(3) 朝鮮通信使（通信使）などの用語が記述されているか、(4) 対馬藩の記述があるか、(5) 宗氏の記述があるか、(6) 雨森芳洲の記述があるか、(7) 朝鮮通信使関連の図絵や資料が掲載されているか。

以上、7つの視点をもとに比較検討し、その結果を受け【表2】を作成した。

○印はそれぞれの項目に関連する直接の叙述があるか、図版等が掲載されているもの。

△印はそれぞれの項目に関連する叙述が間接的に読み取れるもの。

【表2】 日韓中学校歴史教科書における朝鮮通信使関係の叙述・図版等の一覧

日本		JA	JB	JC	JD	JE	JF	JF
1	国交回復	○	○	○	○	○	○	○
2	慶賀の使節（代替わり）	○	○	○	○	○	○	○
3	朝鮮通信使（通信使）他	○	○	○	○	○	○	○
4	対馬藩	○	○	○	○	○	○	○
5	宗氏		○	○	○	○	○	○
6	雨森芳洲			○			○	○
7	朝鮮通信使関係の図絵等	○	○	○	○	○	○	○

韓国		KA	KB	KC	KD	KE	KF	KG	KF
1	国交回復	○	○	○	○	○	○	○	
2	慶賀の使節（代替わり）							△	
3	朝鮮通信使（通信使）他	○	○	○	△	○	○	○	
4	対馬藩								
5	宗氏								
6	雨森芳洲								
7	朝鮮通信使関係の図絵等	○	○	○					

(作成・釜田，許)

日本の歴史教科書は7社とも、秀吉の朝鮮侵略（壬辰倭乱）から通信使の始まりまでの歴史的経緯についての叙述があった。つまり日朝が新しい外交関係を構築する過程について叙述されていることが確認できた。

韓国の歴史教科書は8社中7社は国交回復の事実のみを記述している。日本のすべて（7社）の歴史教科書には、対馬藩と宗氏の記述がある。しかし、韓国のすべて（8社）の歴史教科書には対馬藩と宗氏への言及は確認できなかった。また韓国の歴史教科書の中で、朝鮮通信使の派遣理由については、江戸幕府の将軍の代替わりごとの記述があるのは1社のみであった。

3. 3 日韓の中学校歴史教科書における近世から近代における日韓関係史の叙述について

次の【表3】は、2012年度版の日本の中学校歴史教科書（7社）から、近世から近代までの日韓関係史の叙述や図版等を抽出し一覧表にまとめたものである。また【表4】は、2012年度版の韓国中学校歴史教科書（8社）から、近世から近代までの日韓関係史の叙述や図版等を抽出し一覧表にまとめたものである。

【表3】 2012年版日本の中学校歴史教科書叙述（近世から近代の日韓関係史）

出版社	近世から近代の日韓関係史に関する教科書叙述
J A	<p>1609年、対馬藩（長崎県）の努力で日本と朝鮮との間の国交が回復し、将軍の代がわりごとなどに、祝賀の使節（朝鮮通信使）が日本に派遣される慣例になりました。400人から500人におよぶ通信使の一行の中には一流の学者や芸術家があり、各地で日本の学者と交流しました。対馬藩は、朝鮮の釜山に設けられた倭館に役人を派遣し、朝鮮との連絡や貿易を行いました。輸出品は木綿や朝鮮にんじん、絹織物など、輸出品は銀や銅などでした。</p> <p>・絵：「朝鮮通信使の行列（狩野益信筆 朝鮮通信使歓待図屏風 京都府 泉涌寺蔵）」 朝鮮通信使は、対馬藩主が江戸に連れてきました。大阪までは海路をとりました。途中の各藩には接待や荷物を運ぶことが命じられました。現在でも各地に宿泊や休息をした場所のあとや、通信使の行列をもとにした踊りなどが残っています。</p> <p>・写真：「朝鮮通信使が宿泊した施設」朝鮮通信使が福山藩に接待されて宿泊した「対潮楼」です。（広島県福山市鞆の浦）</p>
J B	<p>朝鮮との国交は、豊臣秀吉の朝鮮侵略以来とぎれていましたが、対馬藩（長崎県）の宗氏の仲立ちにより、国交が回復しました。朝鮮の釜山には倭館が設けられ、貿易を許された対馬藩は、木綿や朝鮮人参などを輸入しました。また、朝鮮からは、日本の将軍の代替わりごとに通信使とよばれる使節が派遣され、宗氏の案内で江戸を訪れるようになりました。400～500人に及ぶ通信使が通る沿道や、一行の宿所には、異国の人を見ようとする民衆のほか、漢詩や朱子学などを通じた交流を求める文人・学者が集まりました。</p> <p>・絵：江戸を訪れた朝鮮通信使の一行（『朝鮮通信使江戸市中行列図』福岡市博物館蔵） 通信使は、江戸時代を通じて12回来日しました。通信使の行列や交流の光景をもとにした祭りや踊りが、各地で行われるようになり、現在にも伝えられています。</p>
J C	<p>日本と朝鮮との関係は、徳川将軍のとき朝鮮国王が、互いに相手を国の代表者として認め、手紙（国書）のやりとりをおこなう関係であった。外交の実務は、中世から朝鮮との関係をもつ対馬藩の宗氏が担当した。幕府は、将軍の代がわりごとに朝鮮に使節の来日を求め、朝鮮は、日本の情勢をさぐる目的もあって、使節団を派遣した（朝鮮通信使）。両国のあいだの貿易も宗氏がおこない、朝鮮の釜山に役所をおいて銀や銅、こしょうなどを日本から輸出し、中国産の生糸・絹織物や米・木綿・薬用人参などを輸入した。銀は、朝鮮を経由して中国にも渡った。</p> <p>・絵：朝鮮通信使 一行は漢城（いまのソウル）から対馬をへて、瀬戸内海・淀川を船で進み、京都からは陸路で江戸にむかった。いまも岡山県や三重県などに通信使を模した踊りが伝えられている。</p> <p>・絵：雨森芳洲 1668～1755 対馬藩で朝鮮との交渉をおこなった雨森芳洲は「相手の国のことばが話せなくては親しい交流はできない」と、朝鮮語や中国語を学びました。朝鮮との外交にあたっては、「まず相手の国の人情や風俗、社会の在り方を知り、また、おたがいにあざむかず、争わず、真実をもって交わる誠心の心をもつことが重要である」と主張しました。</p>

J D	<p>秀吉の朝鮮侵略から後、朝鮮との国交は断絶していましたが、対馬藩のなかだちによって、家康のときに国交が回復しました。その後、将軍が代わるごとに、朝鮮からは通信使（注：通信使は、信を通じる使節、という意味があります）とよばれる使節が江戸をおとずれるようになりました。また、対馬藩は、毎年釜山に船を送って、朝鮮との貿易を行いました。朝鮮からは生糸や木綿・朝鮮人参を輸入し、日本からは銀や銅などを輸出しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵：江戸の町を進む朝鮮通信使の行列（朝鮮人來朝図 奈良県 天理大学附属天理図書館蔵） ・ 写真：唐子踊り（岡山県瀬戸内市牛窓町） <p>牛窓は、瀬戸内海を舟で通る通信使が、風待ちなどで立ち寄ったところです。朝鮮の服装に似た衣装をつけた子どもが、笛や太鼓に合わせて踊る行事が今も残されています。</p>
J E	<p>対馬では、幕府と朝鮮との国交回復のなかだちをつとめた宗氏が朝鮮との貿易を担当し、銀が輸出され、朝鮮人参・生糸・絹織物が輸入されていました。朝鮮の釜山には、貿易のために宗氏の倭館がおかれ、朝鮮からはおもに将軍がかわるごとに就任祝いの外交使節が訪れました。これらの使節は朝鮮通信使とよばれ、江戸時代には計12回やってきました。400～500名の使節団の中には、すぐれた学者や医者もあり、日本の学者や文人との文化交流が行われました。当時、各地の祭りでは、朝鮮通信使をまねた唐人行列が好評でした。人々は、その行列や唐人人形などで、外国人の姿を知ったのです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真：唐子踊り（岡山県） ・ 絵：朝鮮人街道の碑（滋賀県） ・ 写真：朝鮮通信使の姿をした人形（青森県） <p>現在でも、朝鮮通信使の足跡が各地に残っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵：朝鮮通信使をまねた行列が通る祭り（『浮絵朝鮮人』（部分）、東京国立博物館） ・ 図：朝鮮通信使のたどった道
J F	<p>秀吉による朝鮮出兵の後、朝鮮との関係はとだえていましたが、家康は国交の回復に熱心で、その支援のもと、対馬藩の大名・宗氏により貿易が再開されました（注：朝鮮の釜山には対馬藩の倭館が置かれ、500人の日本人が住んで貿易や情報収集を行った）。朝鮮は1607（慶長12）年、わが国に朝鮮通信使（注：朝鮮の国王から派遣された使節団。1811（文化8）年までに計12回の使節が日本を訪れた。）を送りました。以後、将軍の代がかわるたびに江戸に送られてきた通信使は、東洋の文化を伝える使節として各地で歓迎されました。</p> <p>このように、鎖国とよばれる時代にあっても、長崎（対オランダ、清）、松前藩（対清）、薩摩藩（対琉球）、対馬藩（対朝鮮）（注：対馬藩に仕えた儒学者の雨森芳洲は、朝鮮語と中国語を学んで対朝鮮外交にたずさわった。）という「4つの口」を通して、わが国は世界とつながっていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵：朝鮮通信使 <p>将軍に国書を渡して宿舎に戻る使節を、江戸町民が歓迎しているようす。 （朝鮮通信使來朝図 神戸市立博物館蔵）</p>
J G	<p>徳川家康は、対馬の宗氏を通して、秀吉の出兵で断絶していた朝鮮との国交を回復した。両国は対等の関係を結び、朝鮮からは将軍の代がわりのたびに朝鮮通信使とよばれる使節が江戸を訪れ、将軍の権威を高めた。また、朝鮮の釜山には宗氏の倭館が設置され、約500人の日本人が住んで、貿易や情報収集にたずさわった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵：朝鮮通信使 朝鮮通信使來朝図 1607年から1811年まで約12回使節が来日。（神戸市立博物館蔵）

(作成・釜田)

【表 4】 2012年版韓国の中学校歴史教科書叙述 (近世から近代の日韓関係史)

出版社	近世から近代の日韓関係に関する教科書叙述
K A	<p>조선은 전쟁 후의 이러한 어려움을 극복하기 위해 노력하는 한편, 에도 막부의 요청을 받아들이고 일본과의 국교를 재개하였다.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「통신사 행렬도」 통신사를 통한 조선과 일본의 교류는 19세기까지 이어졌다. <p>朝鮮は戦争後のこのような難しさを乗り越えるために努力する一方、江戸幕府の要請を受け入れて日本との国交を再開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「通信使行列図」 通信使を通じる朝鮮と日本の交流は19世紀までつながった。
K B	<p>에도 막부는 여러 차례에 걸쳐 조선에 사신을 보내어 교류하기를 간청하였다. 이에 조선은 승려 유정을 보내 조선인 포로들을 데려온 뒤, 일본과 다시 국교를 맺었다(1609). 조선은 에도 막부의 요청에 따라 대규모 사절단인 통신사를 파견 하였다. 통신사는 19세기 초까지 파견되었으며, 외교 사절인 동시에 선진 문물을 전해주는 문호 사절의 역할도 하였다.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「통신사 행렬도」 1711년(숙종 37)에 파견된 통신사의 행렬을 그린 그림 가운데 정사 부분이다. ・「국서누선도」 18세기에 통신사 일행과 조선 국왕이 보낸 국서를 싣고 강을 건너는 배를 그린 그림이다. <p>江戸幕府は何回にかけて朝鮮に使臣を送って交流することを懇請した。したがって、朝鮮は僧侶である惟政(ユゾン：筆者)を送って、朝鮮人捕虜たちを連れて来た後、日本とまた国交を結んだ(1609)。</p> <p>朝鮮は江戸幕府の要請に従って大規模使節団である通信使を派遣した。通信使は19世紀初頭まで派遣され、外交使節である同時に先進文物を伝える門戸使節の役目も果たした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「通信使行列図」 1711年(肅宗 37年)に派遣された通信使の行列を描いた絵の中心は正使である。 ・「國書船圖」 18世紀に通信使一行と朝鮮の国王が送った国書を載せて川を渡る船を描いた絵である。
K C	<p>조선은 일본의 요청에 의해 통신사를 파견하고 외교 관계를 회복하였다.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「통신사 행렬도」(국사편찬위원회) 통신사의 파견은 임진왜란 후 일본의 요청으로 이루어졌으며, 통신사 일행이 일본에 머무르는 동안 일본의 학자, 예술인들이 찾아와 조선의 문물을 배우고자 노력 하였다. <p>朝鮮は日本の要請によって通信使を派遣して外交関係を回復した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「通信使行列図」 (国史編纂委員会) 通信使の派遣は壬辰倭乱後、日本の要請で成り立ったし、通信使一行が日本に泊まる間に日本の学者、芸術人たちが尋ねて来て朝鮮の文物を学ぼうと努力した。
K D	<p>광해군은 명분보다는 실리를 앞세운 외교 정책을 펴 일본이 관계 회복을 요구해 오자 국교를 맺고 교역을 재개하였다.(기유약조, 1609년)</p> <p>光海君は名分よりは実利を先に立たせた外交政策を開いて、日本が関係回復を要求して来ると国交を結んで交易を再開した。(己酉約條, 1609年)</p> <p>(注：「通信使」という用語が使われなかった。)</p>
K E	<p>왜란 이후 일본에 들어선 에도 막부는 외교 관계가 단절된 조선에 여러 차례 수교를 요청해 왔다. 이에 조선은 제한된 교섭을 허용하 면서 국교를 재개하고, 일본의 사절 요청에 따라 통신사를 파견하기도 하였다.</p> <p>倭乱以後日本に立ち入った江戸幕府は外交関係が断絶された朝鮮に何回も修交を要請して来た。したがって、朝鮮は制限された交渉を許容しながら、国交を再開して、日本の使節要請に従って通信使を派遣した。</p>
K F	<p>에도 막부는 조선에 다시 국교를 맺자고 간청하였다. 이에 조선은 일본에 유정을 보내 조선인 포로를 데려오고 외교 관계를 맺었다. 이후 조선은 일본의 요청으로 통신사를 파견하기도 하였다.</p> <p>江戸幕府は朝鮮にまた国交を結ぼうと懇請した。したがって、朝鮮は日本に惟政を送って朝鮮人捕虜たちを連れて来て、外交関係を結んだ。以後朝鮮は日本の要請で通信使を派遣した。</p>

K G	<p>왜란 이후에 조선은 일본과의 교류를 중단하였으나 일본의 새 정권은 다시 교류를 요청하였다. 이에 조선은 전쟁 당시에 승병을 이끌었던 유정(사명대사)을 대표로 파견하여 포로를 데려오고 국교를 맺었다. 이후 양국은 사신을 교환하였다. 일본의 사신은 부산의 왜 관에 머무르며 업무를 처리하였다. 일본 막부는 장군(쇼군)이 교체될 때마다 조선에 통신사 파견을 요청하였다. 이에 조선은 약 200년간 12회에 걸쳐 통신사를 파견하였고, 조선의 우수한 문화를 일본에 전파하여 일본 문화 발전에 기여하였다.</p> <p>倭乱以後に朝鮮は日本との交流を中断したが、日本の新しい政権はまた交流を要請した。したがって、朝鮮は戦争当時に僧兵を導いた惟政(四溟大師)を代表として派遣して、捕虜を連れて来て、国交を結んだ。以後両国は使臣を交換した。日本の使臣は釜山の倭館に泊まって業務を処理した。</p> <p>日本幕府は将軍(ショウゲン)が替わる度に朝鮮に通信使の派遣を要請した。したがって、朝鮮は約200年間12回にわたって通信使を派遣し、朝鮮の優秀な文化を日本に伝えて日本文化の発展に寄与した。</p>
K H	<p>관련 기술 없음 関連叙述無し</p>

(作成・許)

日韓の中学校歴史教科書の叙述を比較し検討する視点を, (1) 秀吉の朝鮮侵略(壬申倭乱)と江戸時代の通信使の関係, (2) 通信使の役割について, (3) 日朝の関係・交流についての3点とした。

以下, 具体的に検討する。

(1) 秀吉の朝鮮侵略(壬申倭乱)と江戸時代の通信使の関係

日本は7社とも, 秀吉の朝鮮侵略(壬申倭乱)から通信使のはじまりの部分で, 新たな日朝関係を構築していったことを叙述している。関連して日朝関係の仲立ちを対馬藩, 対馬藩の宗氏が行った事実を7社すべてが叙述している。このことは, 江戸時代の国際関係(鎖国下)において, 琉球, 長崎, 松前とともに「対馬」が朝鮮の関係維持に重要な役割を担っていたことを叙述したものである。韓国の教科書は8社とも「日本からの要請があった」など, 簡潔に叙述するとどめ, 対馬藩や宗氏についての言及はない。

(2) 通信使の役割について

日本の歴史教科書は通信使の役割として, 「将軍の代替わり」「就任祝い」という表現はあるが, 韓国の歴史教科書は「日本側の要請」という叙述を盛り込んでいる。韓国の歴史教科書には「慶賀の使節」という叙述はない。KG社のみ「将軍がかわる度に要請してきた」という記述がある。これらの叙述は, 以前の「朝鮮通信使=朝貢使」観からの脱却を意識したものと思われる。朝鮮通信使が果たした朝鮮人捕虜の奪還については韓国の3社が言及している。

(3) 日朝の関係・交流について

日本の歴史教科書には, 朝鮮通信使が果たした文化交流についての叙述は多い。韓国の歴史教科書は, 先進的な文化を日本に伝えたという論調が強く, どちらかという釜山での制限された貿易の実態を含め, 一方的に施し恵む関係であったと一面的な歴史認識に陥る可能性がある。

4 まとめ

本研究は, 日本と韓国の中学校歴史教科書における近世から近代の日韓関係史に関する叙述を比較検討し, 今後の日韓双方の歴史教育実践の充実に向けての指針を導出することを目的としたものである。

本研究では, 研究目的に迫るため, 最初に韓国の教科書制度について概観した。次に日韓双方で公刊されている歴史教科書における近世から近代の日韓関係史に関する叙述と図版等の掲載状況を比較検討した。

研究の結果, 次の3点が明らかになった。

- (1) 日韓の歴史教科書とも近世から近代までの日韓関係史の叙述は, 朝鮮通信使関連の叙述だけであった。
- (2) 日韓の歴史教科書とも朝鮮通信使の互恵性を十分に叙述していない。
- (3) 日本の中学校歴史教科書の方が朝鮮通信使の叙述が充実している。

最後に, 今後の研究課題として, 次の2点を挙げる。

(1) 韓国における教科書の採択状況と授業の質及び歴史認識に関する研究

本研究でも概観したとおり、韓国では教科書検定制度を採用し運用が始まった。教科書採択と実際の授業との関係を中心に、今後、日本と同様の問題点が噴出することが予想される。一方では、そうした問題を共有することから、未来に向けての展望が開ける可能性もあると考える。

(2) 朝鮮通信使と江華島事件の関係

本研究では、主に秀吉の朝鮮侵略（壬申倭乱）と江戸時代の朝鮮通信使について、日韓の中学校歴史教科書叙述の比較検討を試みた。しかし、朝鮮通信使の終焉と江華島事件の関係については十分に論究できていない。今後、江華島事件の教科書分析を行うと共に授業実践の方途についても検討していきたい。

以上の3点の研究成果と2点の今後の研究課題を踏まえた上で、教材開発及び学習過程の工夫を行うことで、日韓双方の歴史教育実践がより実りあるものになると考える。

注

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版, 2008, p.1
- 2) 文部科学省『諸外国の教育動向2010年度版』明石書店, 2011, p.249
- 3) 君島和彦『日韓歴史教科書の奇跡－歴史の共通認識を求めて－』すずさわ書店, 2009, pp.19-53
- 4) 鄭在貞・福田喜彦（報告・訳注）「東アジアにおける韓日関係と歴史和解」日本学校教育学会編『学校教育研究27』教育研究開発所, 2012, pp.211-212
- 5) 同上, p.213
- 6) 梅野正信「第4章日韓の歴史教科書を比較する視点」二谷貞夫・梅野正信他『日韓で考える歴史教育』全249頁, 明石書店, pp.211-212
- 7) 釜田聡「日韓の中学校歴史教科書叙述の比較検討－朝鮮通信使の教科書叙述を中心に－」、『上越教育大学研究紀要』VOL.25, NO.2, 上越教育大学, 2006, pp.551-563
- 8) 釜田聡・鈴木克典「日韓の現代と過去を取り結ぶ教材開発研究－近現代の日本と世界－」, 日本社会科教育学会編『社会科授業力の開発中学校・高等学校編』所収, 明治図書, 2008, pp.126-141
釜田聡「『ポニョの海』が取り結ぶ日韓の現在・過去・未来－『持続可能な開発のための教育(ESD)』の視点から－」上越教育大学学校教育実践研究センター編『教育実践学へのいざない』全259頁, 能登印刷株式会社, 2010, pp.20-29

引用文献・参考文献

- (1) 三宅英利「通信使」『国史大事典第9巻』吉川弘文館, 1988, pp.706-707
- (2) 池内敏「朝鮮通信使」『日本歴史大事典2』小学館, 2000, pp.1081-1082

本研究は、平成23年～平成25年度科研費基盤研究(C)研究代表者・釜田聡「臨床的アプローチとESDを基軸とした日韓相互理解のための歴史教育の教材開発研究」の研究成果によるものである。

A Study on Junior High School History Textbooks Description in Japan and Korea —Focusing on History of Japan-Korea Relations from Modern to Contemporary Times—

Satoshi KAMADA* · Shinhe HEO**

KEY WORDS

History textbook

History of Japan-Korea Relations

ABSTRACT

The purpose of this study is to make a comparative review of descriptions on the history of Japan-Korea relations from modern to contemporary times in junior high school textbooks in Japan and the Republic of Korea (hereafter Korea) and to derive a guideline for the practice of history education both in Japan and Korea in the future.

This study made a comparative review of descriptions on the history of Japan-Korea relations from modern to contemporary times in history textbooks used both in Japanese and Korean junior high schools in 2012.

The result of the comparative review revealed following three things;

1. Both in Japanese and Korean history textbooks, the descriptions on the history of Japan-Korea relations from modern to contemporary times were limited to the ones on Korean envoys.
2. Both Japanese and Korean history textbooks don't describe enough the reciprocity of Korean envoys.
3. Japanese junior high school history textbooks describe more the Korean envoys.